

<p>防火標語</p> <p>おうち時間 家族で点検 火の始末</p>		<p>発行所 公益財団法人長野県消防協会 (長野県庁西庁舎)</p> <p>〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2 TEL (026) 232-5319</p> <p>編集発行人 武井 郁郎</p>
--	--	--

長野県消防協会 <http://naganoken-syouboukyoukai.com/>

第5回

「理事会」開催
令和3年度 事業計画及び予算決まる

公益財団法人長野県消防協会の令和2年度第5回理事会を令和3年3月10日(水)長野市のホテル犀北館で開催しました。会議に先立ち、竹内県危機管理部長からご挨拶をいただき議事に入りました。

まず、第63回県消防ポンプ吹奏大会、第30回県消防ラップ吹奏大会の開催可否について検討を行った結果、新型コロナウイルス

その他、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類について、重要な使用人の選任について決定されました。

また、感染拡大防止のため、2年度に続き中止することとなりました。それに伴い、令和3年度の事業計画(案)及び収入支出予算(案)については、修正し決定となりました。

◆ 令和3年度 収入支出予算書

(単位:千円)

収入				
大 科 目	R3年度(A)	R2年度(B)	比較(A-B)	説 明
基 本 財 産 運 用 収 入	6,906	6,906	0	基本財産運用収入
事 業 収 入	6,183	6,183	0	福祉共済事業加入事務費交付金
長 野 県 補 助 金 収 入	3,800	5,150	△ 1,350	長野県補助金
日 消 補 助 金 収 入	4,780	5,280	△ 500	日本消防協会補助金
雑 収 入	3,072	3,072	0	
財 政 調 整 積 立 金 取 崩 収 入	0	800	△ 800	
当 期 収 入 合 計 (A)	24,741	27,391	△ 2,650	
前 期 繰 越 収 入	5,682	4,129	1,553	
収 入 合 計 (B)	30,423	31,520	△ 1,097	

支 出				
大 科 目	R3年度(A)	R2年度(B)	比較(A-B)	説 明
広 報 事 業 費	714	716	△ 2	信州消防年3回発行テレビ、ラジオスポット
予 防 宣 伝 策 略 事 業 費	831	831	0	県女性消防団員活性化会議・活性化大会 啓発物品発送等
教 養 訓 練 費	6,337	9,683	△ 3,346	県消防団長研修大会等
表 彰 事 業 費	1,993	1,721	272	定例表彰等
弔 慰 救 済 費	1,949	2,377	△ 428	慰霊祭、弔慰見舞金等
管 理 費	12,264	12,437	△ 173	人件費、会議費、関東甲信地区消防協会事務局長会議等
特 別 積 立 出 支 出	195	188	7	
当 期 支 出 合 計 (C)	24,283	27,953	△ 3,670	
当 期 収 支 差 額 (A-C)	458	△ 562	1,020	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B-C)	6,140	3,567	2,573	

(注) 県消防ポンプ操法大会・県消防ラップ吹奏大会、ラップ吹奏講習会中止後の予算を計上



第5回理事会 3月10日(水)

人事異動

令和3年4月1日付

○危機管理部

- 〔転入〕 危機管理部長 中村 宏平 (リニア整備推進局長)

- ・危機管理部次長兼参事 前沢 直隆
- 〔退職〕(3月31日) 危機管理部長(顧問) 竹内 善彦

○危機管理部消防課

- 〔転入〕 課長 柳沢 剛 (北信地域振興局副局長)
- ・企画幹(幹事) 血脇 秀明 (木曾地域振興局企画振興課長)
- ・主任(幹事) 小橋 遼(岳南広域消防本部)
- ・主事(幹事) 中沢 悟(須坂建設事務所)

- 〔転出〕 企画幹(幹事) 田中 哲也 (監査委員事務局次長)
- ・主事(幹事) 佐藤 稔 (ワクチン接種体制整備室)
- ・主任(幹事) 竹内 幸一 (飯田広域消防本部)

○県消防協会

- 〔採用〕(4月1日付) 事務局次長 酒井 貴篤
- 〔退職〕(3月31日付) 事務局次長 土屋 一都

◆ 令和3年度【事業計画書】

事業名	実施項目	内容
I 会議	1 県消防協会関係 (1) 定時評議員会 (2) 理事会 (3) 正副会長会議 (4) 専門委員会 (5) 表彰審査委員会 (6) 参与会 (7) 監査会 2 日本消防協会関係 (1) 理事会、評議員会 (2) 関東甲信地区事務局会長会議	6月11日 3回 5月19日・12月・3月 必要の都度 12月 必要の都度 9月3日 11月 5月14日 6月17日・3月 東京都 12月2日・3日 松本市(長野県当番)
II 防災思想啓発	1 広報事業 (1) 機関紙発行 (2) ホームページ (3) ソーシャルネットワーク (4) テレビ、ラジオスポット 2 防火思想の啓発 (1) 定期火災予防運動 (2) 特別火災予防運動 (3) 各種防火イベントへの参加 3 防災運動 (1) 安全運動 (2) 防災運動 4 消防活動の啓発	機関紙「信州消防」年3回発行 消防団員等へ配布 http://naganoken-syouboukyukai.com https://www.facebook.com/119nagano/(フェイスブック) CM等 秋(11月)春(3月) 随時 随時 随時 国民安全の日(7月1日) 防災の日(9月1日) 救急の日(9月9日) 119番の日(11月9日) 消防記念日(3月7日) 消防団員の勤務事業所等への協力依頼 県内女性消防団員の活性化推進 長野県女性消防団員活性化会議・長野県女性消防団員活性化大会の開催
III 消防施設整備改善	1 消防用施設・機械器具の整備 2 消防用車両等の交付申請	必要に応じ国県等に対し請願・陳情等 日本消防協会が行う消防用車両等の交付先消防団の推薦等
IV 消防技術研修教育	1 第63回長野県消防ポンプ操法大会 →中止 2 第30回長野県消防ラッパ吹奏大会 →中止 3 ラッパ吹奏講習会 →中止 4 第11回長野県消防団長・事務担当者研修大会 5 消防団員指導員研修 6 副団長講習会 7 第48回消防団幹部特別研修 8 第21回消防団幹部候補中央特別研修 9 第28回全国消防操法大会 10 第26回全国女性消防団員活性化徳島大会	千曲市戸倉体育館A・Bグラウンド(7月11日) 県消防学校(4月17日) 長野市(10月22日) 県消防学校(12月16・17日)40名程度 県消防学校(6月5日) 日本消防協会事業へ参加(1月18日~21日) 中信ブロックから1名 日本消防協会事業へ参加(男性2月2日~2月4日・女性2月16日~18日) 東・北・南信ブロックから男女各1名 千葉県市原市(10月29日) 徳島県徳島市(11月9日)
V 消防制度等研究改善	国・県・日消に対し請願・陳情	必要に応じ実施
VI 消防関係者の表彰	表彰 (1) 長野県消防協会長表彰 (2) 日本消防協会長表彰 (3) 県民の消防員表彰	消防関係者等の表彰(1月) 日本消防協会定例表彰 東京都(3月) NBS長野放送県民の消防員表彰(2月)
VII 共済・福利厚生・弔慰救済	1 弔慰救済 (1) 長野県消防関係殉職者慰霊祭 (2) 弔慰金・見舞金の支給 (3) 罹災者に対する見舞金の支給 2 殉職消防団員遺児の激励 3 福利厚生 信州消防団員応援ショップ事業への協力 4 日本消防協会等福祉共済事業 (1) 第40回全国消防殉職者慰霊祭 (2) 消防団員等福祉共済 (3) 消防個人年金 (4) 婦人消防隊員等福祉共済 (5) 消防育英会	長野市花岡平(9月3日) 県消防長会当番 その都度 その都度 図書カードを交付し激励(12月) 県との共催事業 遺族代表者等出席 東京都 ニッショーホール(9月9日) 加入促進 加入促進 加入促進
VIII 基本財産等の運用	1 基本財産の有効運用 2 運用財産の有効運用	
IX その他	1 関係団体との連絡調整 2 地区協会との連携強化	市長会、町村会、消防長会等

○ 令和3年7月11日(日)に、千曲市の戸倉体育館グラウンドで開催を予定していましたが、第63回県消防ポンプ操法大会・第30回県ラッパ吹奏大会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止とすることに決定しました。

なお、4月17日(土)開催のラッパ吹奏講習会についても、同様の理由で中止といたします。関係の皆様方には、多大な御迷惑をおかけいたしますが、今回の決定に御理解を賜りますようお願い申し上げます。

「県消防ポンプ操法大会・県消防ラッパ吹奏大会」

あり方検討会」の報告書を理事会に提出

長野県消防協会では、県消防ポンプ操法大会・県消防ラッパ吹奏大会の今後のあり方等について検討するため、「県消防ポンプ操法大会・県消防ラッパ吹奏大会のあり方検討会」を令和2年3月13日に設置し、これ

まで4回に渡り、幅広く議論を行ってきました。

この度、検討会として、アンケート調査の結果も含め検討の結果を整理し、報告を取りまとめ、令和3年3月10日に開催した、県消防協会理事会に報告書

を提出しました。理事会で検討した結果、今後、報告書の内容に沿って、検討を進めていくこととなりました。

なお、報告書については、県消防協会のホームページに掲載しましたので、ご覧ください。

第73回 日本消防協会 定例表彰

第73回日本消防協会定例表彰の受章者は、全国で151団(隊)11、033名、本県の受章者は、次のとおり、5団、216名でした。

・優良消防団(特別表彰まとい)

松本市消防団

・優良消防団(表彰旗)

小海町消防団

東御市消防団

駒ヶ根市消防団

野沢温泉村消防団

・功績章

・精進章

・勤続章

33名
86名
97名

第23回 長野県民の消防員表彰

NBS長野放送主催による、第23回長野県民の消防員表彰の表彰式が、2月20日(土)長野市の長野放送NBSホールで行われ、次のとおり表彰されました。

・団体の部

諏訪市消防団(小池敏彦団長)

・個人の部

長野市消防局

消防司令 宇田 修



NBS 県民の消防員表彰式 2月20日(土)

消防庁長官定例表彰

令和2年度消防庁長官定例表彰の本県消防関係の受章者は、次のとおりです。

・功労賞

上田市消防団

団長 矢島 昭徳

・永年勤続功労章 62名

・表彰旗 1団体

喬木村消防団

・竿頭綬 2団体

上伊那広域消防本部

辰野町消防団(連名)

佐久広域連合消防本部

佐久穂町消防団(連名)

消防団等地域活動表彰

消防庁主催の令和2年度消防団等地域活動表彰の本県関係の受賞団体は、次のとおりです。

・消防団表彰

小諸市消防団

原村消防団

・事業所表彰

北信州森林組合(中野市)

小諸市消防団及び原村消防団

には、3月10日(水)に開催した

県消防協会理事会の際に、竹内

県危機管理部長から団長に賞状

が授与されました。

県消防協会事務局 の紹介

県消防協会事務局は、県庁東庁舎から、県庁西庁舎2階へ3月24日に移転いたしました。県庁にお越しの際は、是非お寄りください。

・新住所、電話番号

長野市大字南長野字幅下

69212

長野県庁西庁舎2階

026123215319 (変更なし)

・令和3年度

県消防協会事務局職員

事務局長 酒井 貴 篤

主事 滝 沢 真由美

書記 篠 田 智佳代



消防団等地域活動表彰式 3月10日(水)

自分達の地域は自分達で守る

県消防協会理事が所属する消防団の活動状況について



駒ヶ根市消防団
団長 北原 義康

駒ヶ根市の紹介

「駒ヶ根」という名前は、「駒ヶ岳の麓のまち」という意味で、駒ヶ根市は、長野県南部、伊那谷のほぼ中央に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスの3千メートル級の山々を、市内から望むことが出来ます。登山



秋季訓練の様子



年末特別警戒出発式の様子

駒ヶ根市消防団の紹介

昭和29年7月1日の町村合併により駒ヶ根市が誕生し、同時に、駒ヶ根市消防団は、32分団・1,598名で発足しました。

バスとロープウェイを乗り継ぐことで、標高日本一の駅「千畳敷駅」(標高2,612m)へ一気に向かうことができます。登山バスとロープウェイは、通年を通して運行しているため、春夏秋冬と違った顔の千畳敷を楽しむことができます。



広報誌「それゆけ!! はっぴ隊」



災害時電源車両導入(PHEV)

駒ヶ根市消防団の活動

昭和43年には、現組織の元となる5分団体制による組織変更を行い、その後も消防ポンプ自動車等消防資器材の充実を図ると共に機構改革を行い、平成14年には団員数を600名と定められました。平成16年に女性消防団員が入団し、今は「桜こまち隊」として、10名が、災害における本部活動の他に、消防団広報誌「それゆけ!! はっぴ隊」を作成、市内全戸に配布し防災意識の向上、消防団への理解を深めてもらうよう努力をしています。

現在、本部34名、機関員418名、機関27台、喇叭隊42名、救護隊42名、バイク隊17名、バイク8台(内赤バイ3台)、総員553名で活動をしております。

おわりに

令和2年度の前半は新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、春季訓練、ポンプ操法大会等、火災をはじめ災害出動以外の活動を自粛せざるを得ない状況でした。災害活動についても、十分な感染予防を行っていた上での活動となりました。7月の豪雨の際は、避難勧告が出され、河川の警戒巡視などの水防活動を行いました。

秋期頃より、感染予防を徹底しながら、ようやく屋外において、分団毎に新入団員への機関操作や規律等の訓練が行えるようになりました。

ネット社会が進み、消防団に関する全国的なニュースが日々取り上げられ、消防団を取り巻く環境がめまぐるしく変わっていることがわかります。また、新入団員の確保等についても、全国どこの消防団も苦労していることも伝わってきます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防により、訓練、大会、式典が中止となっており、団員同士のコミュニケーションが取りにくくなっている状況もあります。これから新型コロナウイルスウィルスワクチン接種が始まることで、また消防団を取り巻く環境が変わっていくと思われれます。

当消防団も定数、機関配置、団員の活動環境の整備など、時代に合せた改革の取り組みを始めようとしております。「自分達の地域は自分達で守る」という、不変の目的を達成するために、新たな活動を模索しながら、日々精進して参りたいと考えております。

